



すやま・てつお ●1943年東京都生まれ。1969年北海道大学医学部医学科卒業。整形外科医として活躍し、1986年国立障害者リハビリテーションセンター整形外科医長に就任。埼玉医科大学および国際医療福祉大学での教授職を経て、2014年学校法人敬心学園日本リハビリテーション専門学校校長。2020年より現職。日本障がい者スポーツ協会理事・医学委員長を務める。

授業は原則40人以下で行います。授業は原則40人以下で行います。専門職大学のカリキュラムは、専門を学ぶための基礎を形成する「基礎科目」と、職業人としての実践力を身に付ける「職業専門科目」、卒業後に活躍の場を広げるための「展開科目」で構成されています。

このうち、各専門職大学の個性が最も表れるのが展開科目です。本学ではそこに、障がい者スポーツやユニバーサルツーリズム、美容ケア、音楽療法といったQOLに関する科目に加えて、マーケティング戦略や財務会計などの経営・マネジメントに関する科目を配置しています。これには、共生の知識や技術を生かして新たな事業やサービスを創造し、地域の保健医療の発展をけん引していく人を育てたいとの狙いがあります。

ほかにも、^{※1}アスレティックリハビリテーションや被災支援、緩和ケア、障害児教育などの科目を設けて、地域の課題に学生がさまざまな形で関わっていくことを可能にする教育を充実させています。

医療専門職の養成と、地域の課題解決に関わる力の育成を両立させるため、本学では卒業単位数を法令の定めよりも20単位以上多い

共生社会の実現と発展を地域でけん引する大学へ

新たな事業やサービスの創造に挑戦する医療専門職人材を育成

少子高齢社会では共生が地域活性化の鍵

本学は2020年4月に開校した専門職大学です。構成はリハビリテーション学部の1学部、理学療法と作業療法の2学科。設置主体は、30年以上にわたり専門学校で保健・医療・福祉分野を中心

に専門職人材を育成してきた敬心学園です。キャンパスは東京都江東区にあります。

その本学がめざしているのは、「共生社会の実現と発展」への貢献です。少子高齢化が進む日本では、現役世代の負担が増大しています。若い世代が支えるだけでなく、健康寿命の延伸によって互い

に支え合う共生社会を実現することが急務です。そのため、これらの医療専門職には地域に入り込み、保健医療機関などと連携しながら、健康者や障がい者、若年者や高齢者などの多様な生活者の健康増進と社会参加を支援する役割が期待されます。

このような人材を育成するに

145単位としています。このように多くのことを学ばなければならぬ状況をわかつたうえで、学生は本学に入学してきました。志望理由を尋ねると、「多くの実習を通して実践力を身に付けたい」「展開科目で広い視野を身に付けたい」「管理職になったときに生かせる経営・マネジメントも学べることに魅力を感じた」といった声が聞かれます。専門職大学の教育の特色や、本学の教育の特徴を実によく理解しています。

また、高校のときにほかにはどこかの大学を検討していたかを聞くと、同じ偏差値帯の中から選ぶのではなく、教育内容をよく吟味して受験校を決めている様子がうかがえます。目的意識の高さや将来ビジョンの明確さを、学生からは感じます。

教員の地域参加を積極的に後押し

地域と関わる教育を実践する教員も意欲的に地域に出向き、共生社会の実現に尽力しています。江東区との連携では、高齢者施設、障がい者施設などで、運動療法や音楽療法、手話教育などの地域貢献プログラムを提供しています。今後はこれをさらに拡大し、学生

も参加させることで、地域の特性を深く理解する能力、良好な人間関係を構築する力などを育成したいと考えています。

地域社会や産業界との連携は、専門職大学の設立の理念に関わる重要な取り組みです。教員評価に活動実績を反映させることなどを通じて、教員が学外にどんどん出ていく風土を学内に醸成していきます。

専門職大学は、理論と実践を融合した職業教育をめざして創設されました。その実現には、専門学校や現場で実技指導を行ってきた実務家教員と、大学で教育研究に携わってきた理論家教員の融和が何よりも大事だと考えています。そのため私は、一人ひとりの教員に寄り添い、私自身が彼らをつなぐハブになることを強く意識しています。学長室に教員が訪れて



荒波に挑むトップ

私の改革論

No.41

東京保健医療専門職大学 学長 陶山哲夫

東京保健医療専門職大学 ●2020年開学。設置者は学校法人敬心学園(1984年創立) ▶1学部2学科、入学定員160人 ▶建学の精神は「健康者・障がい者、若年者・高齢者など、多様な人々が「共生できる社会」の実現と発展」

取材・文/仲谷宏 撮影/荒川潤

は、専門とする医療分野の知識と技術の修得に加え、「共生」に対する理解や、その実現方法に関する学修が必要です。地域における連携では、リーダーシップやマネジメント能力も求められるでしょう。

しかし、頭で理解すればすぐに現場で使えるというわけではありませぬ。私は医師として障がい者スポーツに関わる中で、援助する側に確かな知識と技術がなければ相手の身を危険にさらす恐れがあることや、共に何かをすることで自分自身の世界が広がることを実感しました。このような大切なことを心に深く刻み込む実践経験も実務リーダーには欠かせません。

こうしてみると、理論と実践を融合し高度な職業人の養成をめざす専門職大学は、共生社会を支える人材の育成に、とても適したしくみだと言えるのではないのでしょうか。

地域と関わる力を展開科目等で育成

専門職大学は、地域や産業界と連携した実践的な教育に特色があります。卒業単位の3分の1以上は実習系の科目が占めており、専任教員の4割以上は実務家教員で

くるのを待つのではなく、私から研究室を訪ねて、何をやりたいのか、何に悩んでいるのか、彼らの話を聞いて回っています。

本学の設立主体である敬心学園の「敬心」とは、相手を敬い、相手の身になって考え、相手に寄り添う心を表す言葉です。教育と同じく大学運営でも、この考えを大切にしています。在学生や地域に寄り添うことはもちろんですが、卒業生に対しても起業支援やキャリア転換支援などで生涯寄り添う存在でありたいと思っています。

新大学制度の成否を分ける責任の一端を本学が担っていることを胸に、今後も本学が掲げるビジョンの実現に取り組んでいきます。

注目の経営指標

地域貢献の実績

地域で活躍する人材を育てるには、教員の目が地域に向いていなければならない。そのため、地域貢献活動に活発に取り組む学内風土づくりを重視しているという。研究や教育だけでなく、地域貢献も教員評価に加味し、地域との連携を促していく考えだ。

*1 年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく楽しめる旅行 *2 Quality of Life *3 スポーツなどの高い活動レベルへの復帰をめざすリハビリ